

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@hotmail.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



慈雲

即勅大目犍連
及以阿難
從空而來
佛從耆闍崛山没
於王宮出

すなわち大目犍連だいまっけんれんおよび阿難あなんに勅して、

空きたよりして来らしめたまう。

仏、耆闍崛山より、王宮に没して出いでたまう。

【『観経』の言葉】

幽閉されている韋提希夫人は、仏弟子の目連と阿難を遣わしてくださいと釈尊に請いました。

(38号参照)

耆闍崛山におられた釈尊は、遠く離れながらも夫人の本心を汲み取って、請われたとお目連と阿難を、夫人の元へお遣わしになりそれをおつてすぐさまご自身も王宮へ行かれるのです。夫人が心から求めているのはお釈迦さまであるからです。

「没して出る」とは、単に釈尊の身体の移動だけでなく、釈尊の大悲の心が夫人のところに現われたことをも意味しています。

今月は

みだぶつほんがんねんぶつ
弥陀仏本願念仏

じゃけんぎょうまんあくしゅじょう
邪見憍慢悪衆生

しんぎょうじゅじじんになん
信樂受持甚以難

なんちゅうしなんむかし
難中之難無過斯

の四句を学びます。

「弥陀仏の本願念仏は、邪見・憍慢の悪衆生、信樂受持することはなほだもつて難し。難のなかの難これに過ぎたるはなし。」と読みます。

まず現代語訳してみますと「阿弥陀仏の本願の念仏は、邪見や憍慢といった悪衆生がそれを信じて保ち続けることはなほだ難しいことである、難の中の難であつてこれに過ぎたことはない」というような意味であります。

阿弥陀仏の建てられた本願の念仏はイツデモ・ドコデモ・ダレデモ称えることの出来るいわば公開された教えのはずです。しかし邪見や憍慢などの悪い衆生はそれをいたたくことが大変難しいと言われるのですからこれはいったいどのような考えたらよいのでしょうか。

まず「邪見」とは自分の考えが正しいとして真実の声を聞こうとしない人です。また「憍慢」は自分はもうすでに知っているといつてこれもやはり真実の声を聞こうとしない人です。このようなひとがどこかにいるのではなくて、わたしたちの日常の中にもいくらかもあることではないでしょうか。誰もが「私の考えは邪見だ」とは思っていないでしょう。しかし、折にふれて他の意見を聞いて、自分の考えはまちがっていたと思うことはあるでしょう。

私は、大阪からこの京都の真ん中にある瑞蓮寺に来てそろそろ三十年が経とうとしています。このごろようやくいろいろな方の声が聞こえるようになってきました。これまでももちろん聞いていたつもりでしたが、今から思うとかなりとんちんかんな聞き方をしていたのではないかと思います。自分の考えが邪見だったというよりも、自分の得手勝手に聞いていたことがわかります。

「憍慢」に関しては私に次のような経験があります。ある町内の地藏盆にお参りをしたときのことです。お勤めのあとで子供たちに手を合わせるこの大切さを話していました。そして話しながらふと

後ろを見ると、お地藏さまが手を合わせている姿が目に入りました。そのときふと私はお地藏さまの声が聞こえた気がしたのでした。「お前は子供たちにえらそうに話しているが、自分自身は心から手を合わせているのか」というようなものでした。そのときのわたしの姿をここでは憍慢というのだと思います。つまり、私はもうすでに知っている、だからまだ知らない子供たちに教えてあげるのだというものでした。このような驕り高ぶりを憍慢といいます。邪見にしても憍慢にしてもそれが破られた時にそうだったと知るのでしよう。

邪見や憍慢の根っこにあるのは我（が）、自力であります。人は皆これを持ち頼りにして生きている生き物です。ですから、本願のお念仏は常に公開されているにもかかわらず、私たちの耳には入らないのです。ただひとつ入る方法は自らが邪見であり憍慢であると知ることだけなのです。そのときに我が身の罪を知ると同時に真実の声が聞こえるのでしよう。「難中之難」とは私の持っている自力根性がいかに強く離れがたいものであるかということをおうとされていく言葉なのです。

【易行風】

「相続」というと、まず頭に浮かぶのは遺産相続ではないでしょうか。

インターネットで調べると

- 一、家督・地位などを受け継ぐこと。跡目を継ぐこと。「宗家を相続する」
- 二、法律で、人が死亡した場合に、その者と一定の親族関係にある者が財産上の権利・義務を承継すること。現行民法では財産相続だけを認め、共同相続を原則とする。

とあります。

ところが、古い辞書で調べると一、二に加えて、

あいつぐこと。受けつぐこと。

と地位や財産に限定しない意味も書かれています。いつ頃から消えてしまったのでしょうか。

なぜ、このようなことを言うかと申しますと、最近「教えの相続」について考えさせられることがあったからです。

これは私の体験ですが、子供の頃、母からお仏壇に手を合わせなさいとよく言われ、お仏壇に手を合わせることに意味もわからずに拝んでいた記憶があります。

その影響か、今でも自然にお内仏に手を合わせています。

しかし、最近はお内仏の無いご家庭が増えてきて、お内仏に手を合わせることを知らない子供達が増えてきたと聞きました。

これは大きな問題だと思い、これから「教え」をどう伝えて行くかを考える中で、「教えの相続」について考えさせられたからです。

私は財産の相続の場合は、子供は相続するものだと思いますし、親は相続させるものと思っていました。

しかし、親に負債がある場合、子供は相続を放棄することができません。

これと同じで、教えの相続にも負債があれば子供は相続を放棄するでしょう。では教えの負債とはなんでしょう。負債とは言い換えれば欲しくないものということになると思います。教えの欲しくないものとは、しちめんどくさい形ばかりの儀式のことではないでしょうか。

本来の意味での安らぐ教えが伝えられたら、子供は放棄しないと思います。

それは大変なことだと思いますが、何気ない日常の中で気を付けて行けば自然と伝わるのではないのでしょうか。

また、親は相続させるものと思っていましたが、本当は子供に相続してもらったものでは、との思いが湧いてきました。相続する・しないは、子供の自由なのだから、相続し易い環境をつくり、ガミガミ言うのではなく、日々少しずつ渡して行けばよいのではないのでしょうか。

とあるコラムに次のような文章がありました。

ある分野に初期から携わっている人間が、「その仕事をしていて、報われるのか？」と問われたときに、自信をもって「Yes!」と言えないでいたら、後から始める方に希望を与えることができるのか？

まさにその通り、これは教えを伝えて行くことにも共通することだと思います。

親が自信を持って教えを善いものだと伝えなければ、子供は教えを聞くことに、なんの希望も持たないのではないのでしょうか。

「教えの相続」その第一歩は親が自信を持ってお内仏に手を合わせ、そして、朋に手を合わせ、教えを伝え、受けつぐことだと私は思います。

【瑞蓮寺 同朋の会】

同朋の会では六月四日(土)から四回(六月四日・七月二日・九月三日・十月一日)にわたって「阿弥陀経を読む」と題して御住職による『阿弥陀経』のお話が始まります。『阿弥陀経』は上げたり聞いたりするけど、内容は？と言う方が多いのではないのでしょうか。全て時間は午後二時からで、場所は瑞蓮寺です。この機会にもう少し深く『阿弥陀経』にふれてみませんか。

また、十二月には「第二回写真コンテスト展示&投票」を行います。ふるってご応募ください。詳しくは瑞蓮寺まで。

【お磨きのお知らせ】

春のお彼岸からお盆まで、少し時間があきます。でも、法要は無くても仏具は常に綺麗にしておくものです。さあ、仏具のお磨きをしましょう。少し無駄口をたたいても、阿弥陀様はお叱りにはなられません。皆さんの仲の良さをかえって喜んでおられます。皆様ふるって御参加下さい。

日時 六月十日(木) 午前九時より

【ご案内】

瑞蓮寺では書道教室を開講しております。ご興味のおありの方は、瑞蓮寺までお問い合わせ下さい。

開講日

第一、木曜日

午後六時～午後七時半

第二、第四、火曜日

午後四時半～午後七時

第四、土曜日

午後四時～午後五時半

月謝等、詳しくは瑞蓮寺(電話〇七五—二二—四六一六)まで。

【編集後記】

早いもので、もう六月です。春のお彼岸が過ぎて、五月は夏かと思うほど暑かったです。皆様如何お過ごしでしょうか。久しぶりに「易行風」を掲載することができましたが、如何でしたでしょうか。

先日、お昼は仏教青年会(若手の僧侶・寺属〔寺院に所属する人々〕)の集まりに参加し、夜は山城第一組(※)の推進員協議会に参加してきました。

推進員とは門徒の立場で教えを広めて行こうとする人々で、推進員養成講座を受講し、東本願寺から認定された人となります。前回は平成二十五年にあり、瑞蓮寺からは十名が推進員となりました。その方々が中心となって「瑞蓮寺同朋の会」を運営しています。

説明が長くなりましたが、お昼は二十代中心の人達、夜は昔々二十代中心の人達と一緒に過ごしました。そうすると、年齢差からくる考え方の違いはありませんが、どちらも三宝を大事にし、真宗を守って行こうという気持ちは同じだということがよくわかりました。やはり、大切なものは代わらないのでしょうか。

長塩浩史

※東本願寺に所属する寺院は「教区」「組」と言う単位でまとめられていて、瑞蓮寺は京都教区山城第一組に所属します。略して「山一」と呼ばれています。今後も、よく出てくると思いますので、覚えておいて下さい。

瑞蓮寺のホームページ

<http://www.zuirenji.net/>

瑞蓮寺のメールアドレスが変わりました

zuirenji@hotmail.com